

炭酸ガスを施用するとトマトの収穫量が増える！！

【研究のポイント】

園芸品目では炭酸ガスを施用すると収量が向上するとされています。今回、冬春トマトについて、炭酸ガスの施用(灯油燃烧方式)が、収量及び品質に与える効果について調査を行いました。



トマトの栽培状況

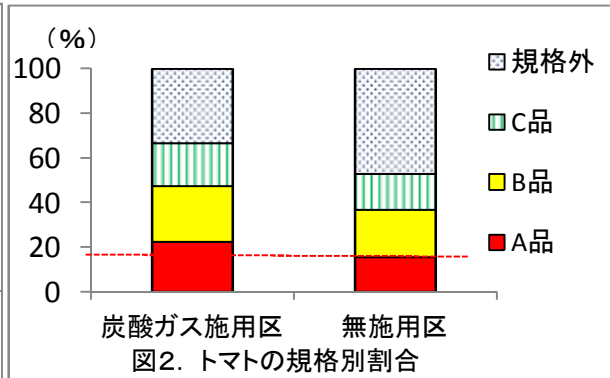
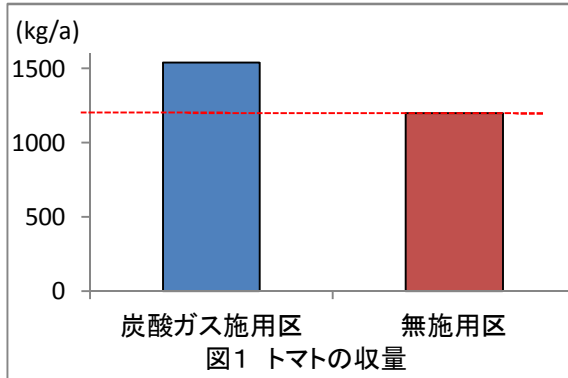


炭酸ガス発生装置の一例

【研究の成果】

＜成果のポイント＞

・収量については炭酸ガスを施用することで無施用区に比べて平均344kg/a(28%の増収)高くなりました。炭酸ガスを施用することで商品果率、特にA品率が7ポイント無施用区よりも高くなりました。(平成26～27年の2ヶ年平均、品種:感激73)



＜炭酸ガス施用のポイント＞

・今回、炭酸ガスは11月～3月に日中の濃度が400～500ppm以上を保つように施用しました。
 ・炭酸ガスについては一定濃度が確保できているかを環境モニタリング装置を用いて毎日確認することが重要です。

＜生産現場への普及＞

トマトの周年栽培を行っている大規模経営体を中心に普及が進んでいます。

【生産者の声】

トマトの炭酸ガス施用により、例年なら落ち込むところでも収量が確保でき、2割以上増収しました。コストパフォーマンスも良く、今年度から全面的に取り入れ生産の拡大を図っていきます。

(株)住化ファームおおいた 大井 隆志 氏



【連絡先】

担当:農林水産研究指導センター 農業研究部 果菜類チーム
 TEL :0974-28-2080
 住所:大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8